

予算額

8,858,650 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	10 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	3 団体	4 団体	0 団体	3 団体

トップアスリート総数	14 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	3 名	0 名	7 名	4 名

アシスタントコーチ総数	3 名
-------------	-----

指導種目	サッカー、スキー、スノーボード、デジタル射撃、スピードスケート、陸上、バレーボール
------	---

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- 一部の地域に偏らず、より多くの子どもたちが指導を受けられるように、できるだけ広域に派遣を行った。そのために特定団体への継続性という点に課題は残ったが、地域や各団体への事業の周知や目的を理解してもらうためには大変大きな効果があった。
また、広域で行ったことにより、それぞれの地域の報道媒体による取材をいただき、派遣先団体だけではなく地域全体に周知することができた。
- 北海道という土地柄、冬季スポーツの振興を図ることも一つの視点に置いた。
- トップアスリートへの協力については、所属先などの関係団体に理解を求めていくことで、多くの方々に協力していただくことになった。

◆成果と課題

〔成果〕

- 事業を推進していくにつれて、アスリート個人だけではなく、関係する団体や各総合型クラブなど横のつながりが広がり、北海道全体での取組になるきっかけ作りができた。
- 協力していただいたアスリートも、大会直前でも協力してくれるなど、地域貢献をしたいという両者の目指すべき想いが共有できた。
- アスリートからも「良い勉強になる」との声をいただいた。

〔課題〕

- 今年度は年度途中からのために、計画的な指導派遣ができなかった。また事業を推進していく中で新たに追加した派遣も多くあった。また、せっかく協力を申し出てくれたアスリート全員を派遣できる体制を作りきれなかった。
- 事業終了後、参加費徴収で同様な規模の派遣ができるのか不安が残る。

取組の名称	「住民が主体となったコミュニティの形成と地域づくり」				
趣旨・目的	<p>①多世代参加型の事業の開催 小学生から高齢者まで、多世代が参加できる「みんなでサッカー交流会」を開催し、スポーツを通じた地域コミュニティの形成を図る。</p> <p>②地域の各種団体やトップアスリートによる連携事業の実施 地域のスポーツ少年団の連携、トップアスリート活用事業による交流の推進を協議するとともに、幼児から大人などの一般町民、各種団体とトップアスリートとの連携を進めるために、地域発祥のニュースポーツ(パークゴルフ)交流会などの開催を図る。</p>				
内容	<p>「みんなでサッカー交流会」多世代でのサッカーならびにフットサル交流。 「パークゴルフ交流会」トップアスリートとともにニュースポーツ交流会を開催した。</p>				
1 対象者	<p>①幼児～大人 ②子ども～高齢者</p>	参加人数	<p>①200人 ②100人</p>	実施回数	<p>①1回 ②1回</p>
効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ トップアスリートの活用により地域住民のスポーツに参加する意欲を喚起されることを目指した。 ・ 照明設備を準備することで、秋口での開催が可能になり、多くの方が参加しやすい状況を創り出すことができた。 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ トップアスリートの活用により、地域住民のスポーツに参加する意欲を喚起された。 ・ 照明設備を準備することで、秋口での開催が可能になり、多くの方が参加しやすい状況を作り出すことができた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種少年団への大会ならびに現役アスリートの都合など、日程調整が難しかった。 ・ より有効な予算の活用があったのではないかと反省している。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	4 校
コーディネーター総数	6 名

◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ 派遣にあたっては、できるだけ広範囲にわたるようにした。当クラブの所在地の学校その他、隣町、さらには、敢えて、一番遠距離にあるかと思われる300km離れている総合型クラブのある町の学校にも派遣。
- ・ コーディネーターになる人材については、当クラブのスタッフを配置せず、他の総合型クラブや地域クラブで地域に尽力をしている方に声を掛けた。
- ・ スポーツ文化醸成のためには、各団体の発展と相互の支え合いが必要だと考えているので、この事業によって、彼らの生活を保障できればと取り組んだ。
- ・ 学校現場への協力ということで、コーディネーターの人選にも配慮した。とにかく、学校現場の需要に応じた動きとなるように配慮した。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ 学校現場には大変喜ばれ、各クラブとの間で新たな信頼と連携を築くことができた。
- ・ 各地域で尽力する良い人材を有効活用できた。
- ・ 地域スポーツ振興という面で、各地域からの評価が高まっている。
- ・ 数値などでは計れないが、子どもたちが「体育楽しい。」と言ってくれたり、「できるようになった。」と言ってくれたりする子が増えたとの情報を学校側からいただいている。
- ・ 特に、子どもの競技人口が少なくなっている北海道を代表する冬季競技のスピードスケートやスキーにおいて、細かなサポートができ、競技の楽しみを感じてもらえた。

〔課題〕

- ・ 「1時間目と4時間目」など時間をまたいでの指導でも学校にいて欲しいとの要望が学校側からあった。その間の謝金を支払えなかったことが従事者に申し訳なかった。
- ・ より多くの学校、そして子どもたちを支援して行きたいが、予算が不足している。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ これまで個々に活動していた各種団体や個人が、この事業を通して大きなつながりができ、連携体制が広がって来ている。そして、北海道全体で支え合おうという機運が高まっている。

〔課題〕

- ・ 事業終了後も同様な体制を維持並びに発展するために、実績を積み上げていき、住民の皆様や関係官庁などの協力を今以上に巻き込んでいかなければいけないと考えている。
- ・ トップアスリートの指導力並びに社会性の向上も目指していく必要がある。